

子ども大学こうのすの実践 ～ジュニアリーダーとの交流～



1 実践のねらい

鴻巣市ジュニアリーダーズクラブ「サンクラブ」に子ども大学の運営スタッフ・講師として協力いただき、小学生と中学生・高校生との異年齢間で交流を深めた。

当子ども大学の目的である「いつもと違う友達いつもと違う場所で、新たな学びを体験しよう！」の実現を図る。また、ジュニアリーダー（以下「JL」）に講師や実行委員、職員などの大人と共に運営に関わってもらうことで、子供と大人の橋渡しとなるよう能力を高めてもらう。

2 事業計画

月日	講義名
8 / 19 (金)	講義1「友だち何人できるかな?」【鴻巣市文化センター クレアこうのす】 講義2「古代の人の心にふれよう!」
8 / 21 (日)	講義3「水風船合戦-北本水辺プラザ夏の陣-」【北本水辺プラザ公園】
8 / 24 (水)	特別課外講座「そなエリア東京見学」、「ANA機体整備工場見学」 【東京臨海広域防災公園、ANA機体整備工場】
9 / 17 (土)	講義4「円高・円安って何?“為替”について学ぼう!!」【鴻巣市総合体育館】
10 / 9 (日)	講義5「クルマはどうして速く走れるの?」【関東工業自動車大学校】
10 / 23 (日)	講義6「シェルターをつくろう!!」【鴻巣市馬室キャンプ体験広場】
11 / 13 (日)	講義7「リメ缶」作りにチャレンジしよう!!」【鴻巣市箕田公民館】
12 / 18 (日)	講義8「どんなかたちがつよいか? (橋のつくりの不思議)」【ものづくり大学】

3 事業内容

(1) JLによる講義への協力

ア 講義開始前の協力

各回の受付後、座席への着席までの小学生の誘導や会場への引率を担当した。

イ 講義内での協力

今年度は全8講義中5講義が工作で、JLには工作補助や作業監督を担当してもらった。JLの目が行き届いていたことから全講義を通じて1人も怪我人を出さなかった。その他、誘導、競技の審判にも協力してもらい、職員や実行委員の負担を大幅に減らすことができた。また、小学生を班に振り分けた際は、1人以上のJLが付き、その班の中心として活動した。

ウ 講義終了後の協力

いくつかの講義は予定よりも早く終わったので、講義終了後にレクリエーションを行ってもらった。

(2) JLによる講義の立案・進行

講義1ではアイスブレイクを目的としたレクリエーションを実施した。具体的な内容や時間配分・進行については全てJLに一任し、周りの大人がそのフォローを行った。



小学生を引率して講義会場へ向かいます



危険がないようそばで見守ります

4 成果と課題

(1) 成果

ア 講義1では小学生より「友だち何人できるかな?」で、いろいろな友達ができたととても満足。「楽しい遊びをやって、友達をたくさんつくることができて、楽しかったです。」といった感想を得られた。面識の無い小学生同士の交流に役立ち、その後の講義を円滑な流れにできたものと捉えている。

イ 講義4、講義6では予定していた時間よりも早く講義が終了したため、保護者が迎えに来るまでの間、JLがレクリエーションを行った。JLが中心となり、学校・学年の垣根を超えて小学生同士が仲良く遊び、JLと積極的に触れ合う様子が見受けられた。また、講義が進むにつれてだんだんと小学生同士、小学生とJLとの関係も深まり、子ども大学への参加意欲も高まったのではないと思われる。

ウ 講義7はアルミ缶をカッターナイフで加工するという危険を伴う講義だった。怪我人を出さずに終わられたのは、JLのフォローによるものと考えられる。昨年度は、手を切ってしまった小学生がいたので、監督者としてのJLの役割は大きかった。

(2) 参加した中学生、高校生の感想

ア 中学生スタッフの声

「様々な方(年上や年下)などとの交流の仕方や、これからの人生に役に立っていきそうなことなどが分かった。ぜひ、役立てていきたい。」

イ 高校生スタッフの声

「子ども大学での体験は、普段学校や家庭でもできないことばかりだし、何より他校の子供たちと触れ合える良い場だと思った。このような活動は参加する子供たちはもちろん、中学生も楽しみながら学べるので、ぜひ毎年行ってほしいし、参加したい。」



「水風船合戦」の試合進行

(3) 課題

ア 学校、部活動等との兼ね合いから、講義ごとにJLの参加人数にばらつきが出てしまった。

イ 事業の趣旨や意義について、コンセプトが明確でなかったことからJLに対しての説明が不明瞭になってしまった。そのためJLも参加当初は、自分たちは何をしたらよいのか、といった手探り状態となってしまったようだ。

ウ 修了式にJL資格認定研修会の募集案内及びJL活動を紹介する文書を配布した。小学生と保護者にJL活動の意義を知っていただくことで、活動の活発化に繋がればとの考えからである。また、実行委員である青少年相談員の多くが元JLである。

子ども大学→ジュニアリーダー(JL)→青少年相談員といった流れを作り、地域活動に関心を持ってくれる人材を育成する場として子ども大学を位置付けたい。



「だるまさんの一日」で遊びます



小学生に大人気です



講義の企画進行を自分達で行いました